



望月先生の

デンタルニュース

《歯が生え替わる時期の注意》

今回のデンタルニュースは乳歯から永久歯に生え替わる期間に気をつけたい点をいくつかあげたいと思います。

人間の乳歯は平均的に、6歳から13歳位の間7年程かけて生え替わるります。早い子は5歳頃から抜け始まり、抜け替わりが遅い子供は15歳前半位までかかることがあります。普通は下顎の前歯から抜け始め、一般的に最後に生えてくるのが上顎では犬歯(糸切り歯)、下顎では第二小臼歯となります。ですからよく見られる八重歯は上の犬歯が多いのです。

永久歯の生えてくる能力は根が完全にできると弱くなるか、あるいは失われてしまいます。なんらかの理由で乳歯が抜けなくて永久歯が生えてこれなかったり、虫歯等で早く乳歯が抜けたりして永久歯の生えて来るスペースが無くなってしまふと、永久歯の根が顎の骨の中で完成してしまいます。そうすると永久歯は顎の中に埋まったままになってしまい、手術で歯を出し、矯正で引っ張らないと生えて来れなくなってしまうのです。

ふつう乳歯は全部で20本あり、永久歯は親知らずを含めて32本あります。永久歯の大白歯には抜ける乳歯はありません。第一大臼歯は6歳頃に下の前歯が抜けるのとほぼ同時に生えてくるので「6歳臼歯」とよばれ、第二大臼歯は12歳頃に生えてくるので「12歳臼歯」とよばれています。第三臼歯は「親知らず」で生えてくる顎のスペースのある人は16歳前後に生えてきます。

生えたとの大白歯の噛む表面には乳歯の臼歯に比べて多くの深い溝があります。永久歯は完全に生えるまでは、周りに生えている乳歯より低い位置にあるので歯ブラシがとどきにくく、また見えにくいので歯磨きが困難になり、虫歯になりやすくなります。

また大白歯の溝は深く狭いので歯ブラシで完全に歯垢をとるのは不可能です。噛む表面の虫歯を予防するには、歯科医のもとで「シーラント」を塗ってもらう事をお勧めします。シーラントとは合成樹脂でできた液体状プラスチックで、噛む表面の歯垢をよくおとした後溝に塗ります。塗った後特別な光をあてると樹脂が固まり溝に密着して歯垢が入れなくなりるので虫歯の予防になります。

もう1つ生えかわりの初期に忘れたくない事は歯列矯正の検診です。歯列矯正はたんに歯並びを美しくするだけでなく、噛み合わせを良くします。また歯並びが良いと、歯磨きやフロスがしやすくなるので虫歯や歯周病の予防にもなります。

確かに6歳頃では治療を始めるには早い場合があります。しかしこの時期に歯列矯正の専門医に見てもらい適切な診断と治療を受けると、後々永久歯を抜かなくてもよくなったり、又永久歯に生え替わった後の矯正をする期間を短縮する事ができます。又この時期には、上顎と下顎の骨格の成長をある程度コントロールできるので、成長が止まってからでは顎の手術を受ける様なケースも避ける事が可能になります。この様な理由で米国矯正歯科学会 (American Association of Orthodontists) では7歳になる前に矯正歯科医で検診を受けることを強く奨励しています。

乳歯から永久歯に生え替わるまでの期間は変化が多いのでとても大切な時です。子供達が1生自分の歯で過ごせるよう、この時期に適切は治療を受け又正しい口腔衛生の習慣を身につけるよう頑張りましょう。そしてできれば半年ごとの歯科定期検診をかかさないうで何か問題がある時はなるべく早く対応することをお勧め致します。

このニュースレターは、サンフランシスコ日本語補習校学校歯科医の望月博美先生により、不定期に発行されるものです。ご意見・ご質問、記事のリクエストなどございましたら、hanokenkou@hotmail.com までお願いします。

